

実 績

○手術実績

当科では主に消化器＋肝胆膵の悪性疾患（胃、腸、肝臓、胆嚢、胆道、膵臓、脾臓）に加えて、胆石、鼠径ヘルニア、脾臓疾患、肛門（痔疾患、脱肛）、気胸などの良性疾患の手術も行っています。

2017、2018年の総手術件数は中央手術室での件数が295件、309件で、外来手術件数が101件、123件、中心静脈持続注入用埋めこみ型カテーテル（CVポート）造設術48件、65件で総計はそれぞれ444、497件と、3人体制となり順調に増加しています。

当院での傾向として患者さんの痛みを軽減させ、小さな創で喜んで頂ける腹腔鏡下手術を積極的に導入し、胆石、鼠径ヘルニア（脱腸）大腸癌、胃癌、虫垂炎に対して行っています。鏡視下手術は、2017、2018年度は各々242、263例となっています。SILS(Single incision laparoscopic surgery)という、臍に2。5 cm前後の皮膚切開1か所のみの創で行う腹腔鏡手術を2009年10月から導入し、胆石では既に総計420例以上に施行し、道内でも有数の症例数となっています。この手術は極めて整容性に優れ、痛みも少なく、合併症も少ないことから早期の社会復帰が可能で、満足頂いています。

当科では、いろいろな臓器に囲まれているゆえに、治療に対する専門性が必要とされる胆嚢および胆管、膵臓の悪性疾患にも積極的に取り組んでいます。難易度が高いと判断される症例も北海道大学病院（消化器外科Ⅱ）と連携して最善の治療を提供しています。今後さらなるご紹介、ご相談をお待ちしています。

文責 外科／矢野 智之

○放射線検査件数

当課の放射線検査件数の推移は、2015年度16,384件、2016年度16,789件、2017年度16,348件、2018年度16,179件でした。

検査種別では、一般撮影は若干の減少は見られたものの、透視検査・CT検査においては、前年度の実績を上回りました。

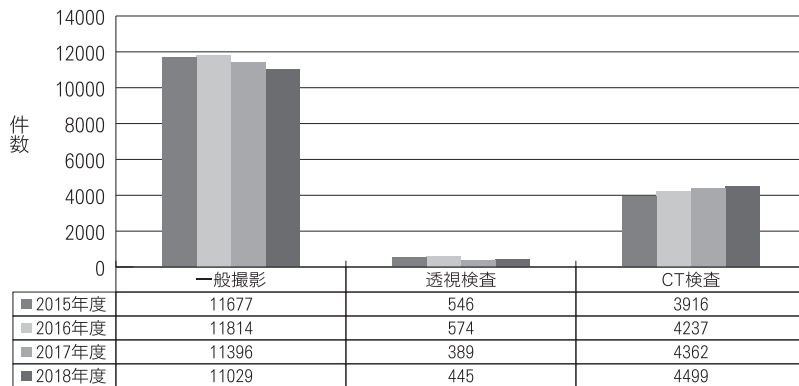
検査別の内訳では、透視検査はERCPの増加がみられ、CT検査は増加傾向ではありますが、血管3D-CTの減少が目立ちます。

当課の目標である「CT月平均検査数400件」には300件ほど足りない状況ではありますが、1日のCT検査数を2件増加できれば、可能な目標であります。諸先生方には、ご多忙のところ申し訳ありませんが、検査依頼をよろしくお願い致します。

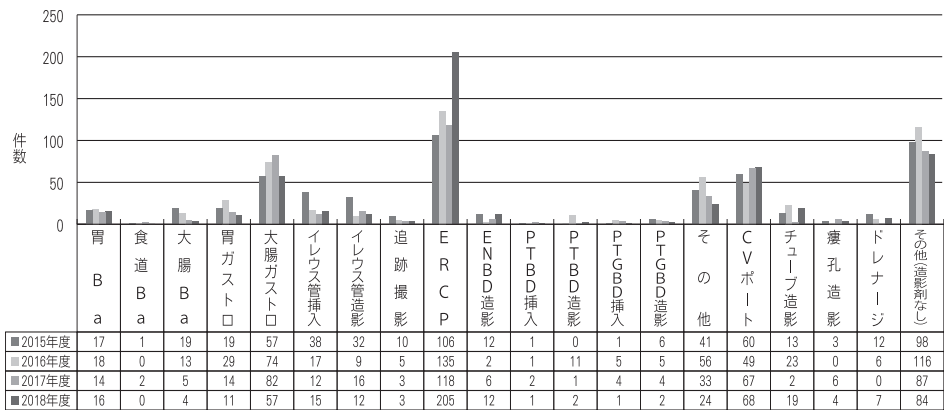
また、今年度は放射線関連の法律改正も予定されていますので、迅速かつ的確な対応に努めていきたいと考えます。

文責 放射線課／山崎 隆志

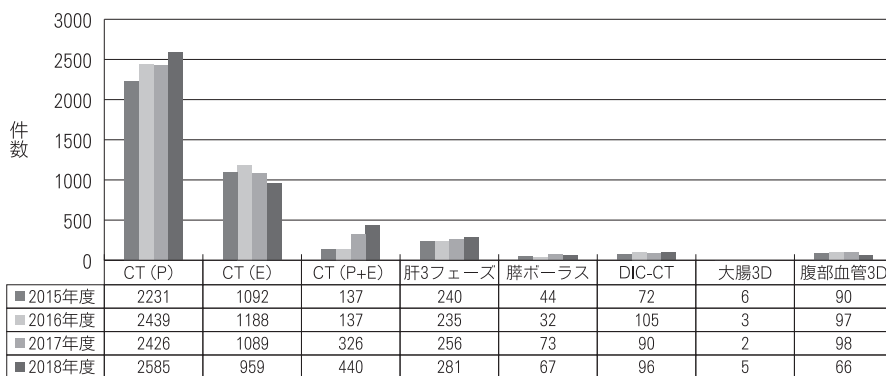
放射線検査別推移（2015～2018）



透視検査種別推移（2015～2018）



CT検査種別推移（2015～2018）



○内視鏡件数

内視鏡室は、外来所属の専任看護師 5 名（内視鏡技師免許取得者 3 名）と CE 1 名（AM 洗浄業務）のスタッフ 6 名で検査を担当しています。

内視鏡室で行っている検査は、胃カメラ、大腸カメラ、ERCP（EST・採石・ステント挿入・交換など）、EUS、拡張術、胃・大腸 EMR、胃・大腸 ESD、EVL、小腸カメラ、イレウス管挿入…と多種になります。

予約検査が主ですが、臨時検査が入る事も多く検査時間や順番の調整で、頭を抱えることもあります…。外来・病棟や放射線科とも連絡を取り合い効率よく検査が出来るように心掛けています。

現在も専任看護師は、平日夜間や休日の待機があり 365 日 24 時間いつでも検査が行える体制になっています。検査には不可欠な医療機器をベストな状態で使用できるように、点検・管理する事も大事な業務であります。更に検査介助は専門的知識と技術が求められます。様々な処置具や精密機器の取り扱いに熟知する必要があるため積極的に内視鏡研究会やライブセミナーに参加しています。

年間内視鏡検査の推移として、H29 年度 4,145 件、H30 年度 4,086 件で検査件数の減少がありますが、H28 年度から 3 年継続して 4,000 件を超える実績があり、検査内容をみると ERCP や ESD などの治療処置系検査が増加しています。

内視鏡検査は辛く苦しいイメージがあり緊張して検査を受けられる方が多く、最近は鎮静剤使用の検査が増加傾向にあります。更に、今年 1 月から札幌市の胃がんリスク健診が始まりました。これからも、検査数の増加と少しでも安心して安全・安楽に検査が受けられるようにスタッフ一同頑張っていきたいと思えます。

文責 内視鏡室／内山 真由美

○看護部教育体制

日本看護協会では毎年調査をしている看護職員の離職率は、横ばいの傾向にある。全国平均の離職率は、正規職員 10.9%、新卒看護師 7.6% である。その中でも、設置主体が医療法人（社会医療法人を含む）の離職率は、正規職員 13.6%、新卒看護師 9.2% となっている。当院の場合、平成 29 年度に 1 名の新卒看護師が 1 年を待たずに離職をした。

看護師が専門職業人として後輩の育成することは重要な責務の一つとなっている。しかしながら、看護師教育の中では患者教育・指導については学んでくるが後輩、同僚の教育について学ぶ機会はない。教える側は、先輩から指導を受けた経験を頼りに、恐る恐る後輩の指導に当たることが常と言える。先輩としての思いが後輩にうまく伝わっているのか、後輩はどんなことを考えて指導を受けているのか、年齢差があればあるほど対面している相手のことが分からなくなる。看護基礎教育だけでなく、生活や仕事での体験やそれまでにかかわってきた人からの学びなどが、一人一人の看護観や指導観に色濃く影響を与えている。

当院では、新人教育にプリセプター制度をとりながら、新人を受け入れたチーム全体が育成にかかわっている。新人を育てるスタッフの心の根底には、愛情と厳しさがせめぎ合っている。社会人 1 年生に看護師の責任とは何かを教えるには、甘いだけでは後に苦勞をすと思い厳しく育てることになる。しかし、『後から困るわよ』『勉強をなさい』厳しい言葉を投げかけてしまう昭和な前時代的指導は今や流行らない。プリセプティベ、やればできる子と励まし、良いところ

を探しほめて伸ばす、手塩にかけ弱いメンタルを折れないように支え、かける言葉一つにも細心の注意を払いながら、手を変え品を変え育て続ける。それでも、離職していく看護師が出ると看護管理者は指導者側のメンタルにも気を使いながらチーム全体の教育に心を砕いている。新人看護職員の育成は本当に力仕事である。皆の努力の甲斐があって平成30年度入職の新人看護師は、すくすくと成長している。

看護師の仕事は責任が重く精神的にも肉体的にも『きつい』、『汚い』、『危険』3Kと言われて久しい。マイナスなイメージを持ちながらではこの仕事を続けることはできない。仕事に対するモチベーションを高めるためのneo- 3Kがある。『感謝』、『関心』、『共有』の3つを実践することで職場内の空気が変わり、日々の看護実践にやりがいを感じる事が出来る様になる。いろいろな個性や力量を持った看護師がそれぞれの力を最大に活かすためにもお互いを認め合いながら力を合わせて看護の質を高めたいものである。

文責 副看護部長・教育師長／廣嶋 真由美

平成29年度、30年度 院内集合研修
事例検討（意思決定支援、継続看護、家族看護、看護倫理） リーダーシップ研修 退院支援研修（基礎編、実践編、管理者編） 主任研修（院内留学） 看護補助者研修 4月採用者フォローアップ研修（3か月、6か月、1年） プリセプター研修 がん看護セミナー

○入院動向

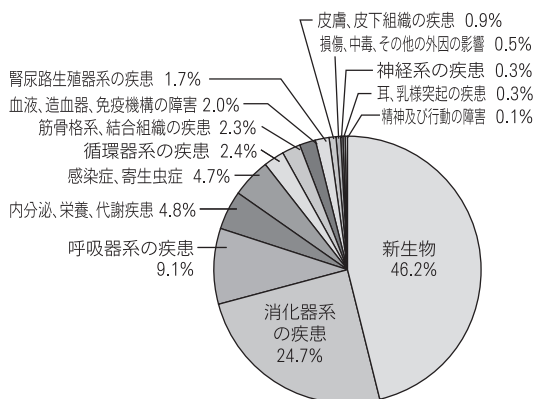
平成29年退院患者数は2,210件、平成30年退院患者数は2,347件（平成27年：1,944、平成28年2,108）となっており、年々退院患者数は増加傾向となっております。

疾患別では、新生物、消化器系の疾患で全体の約70%を占めております。

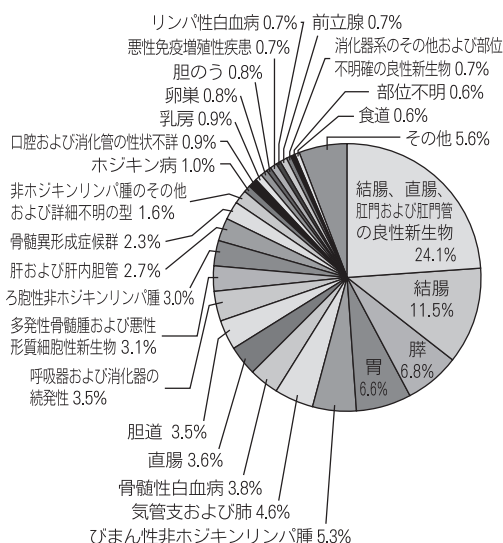
平成29年（1月～12月）

疾病分類（ICD10）	件数	構成比
新生物（C00-D48）	1022	46.2%
消化器系の疾患（K00-K93）	546	24.7%
呼吸器系の疾患（J00-J99）	201	9.1%
内分泌、栄養、代謝疾患（E00-E90）	107	4.8%
感染症、寄生虫症（A00-B99）	103	4.7%
循環器系の疾患（I00-I99）	54	2.4%
筋骨格系、結合組織の疾患（M00-M99）	50	2.3%
血液、造血器、免疫機構の障害（D50-D89）	44	2.0%
腎尿路生殖器系の疾患（N00-N99）	38	1.7%
皮膚、皮下組織の疾患（L00-L99）	19	0.9%
損傷、中毒、その他の外因の影響（S00-T98）	11	0.5%
神経系の疾患（G00-G99）	7	0.3%
耳、乳様突起の疾患（H60-H95）	6	0.3%
精神及び行動の障害（F00-F99）	2	0.1%
先天奇形、変形、染色体異常（Q00-Q99）	0	0.0%
眼及び付属器の疾患（H00-H59）	0	0.0%
合 計	2210	100.0%

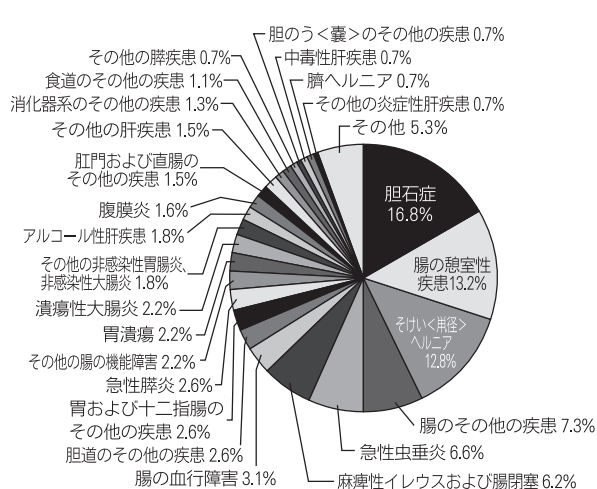
ICD別退院疾病分類患者構成比率（平成29年）



新生物（C00-D48）の内訳



消化器系の疾患（K00-K93）の内訳



疾病分類 (ICD10)	件数	構成比
新生物 (C00-D48)	1173	50.0%
消化器系の疾患 (K00-K93)	591	25.2%
呼吸器系の疾患 (J00-J99)	174	7.4%
感染症、寄生虫症 (A00-B99)	123	5.2%
内分泌、栄養、代謝疾患 (E00-E90)	73	3.1%
筋骨格系、結合組織の疾患 (M00-M99)	47	2.0%
循環器系の疾患 (I00-I99)	39	1.7%
腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	39	1.7%
血液、造血器、免疫機構の障害 (D50-D89)	32	1.4%
皮膚、皮下組織の疾患 (L00-L99)	24	1.0%
損傷、中毒、その他の外因の影響 (S00-T98)	16	0.7%
精神及び行動の障害 (F00-F99)	6	0.3%
耳及び乳様突起の疾患 (H60-H95)	5	0.2%
神経系の疾患 (G00-G99)	5	0.2%
先天奇形、変形、染色体異常 (Q00-Q99)	0	0.0%
眼及び付属器の疾患 (H00-H59)	0	0.0%
合 計	2347	100.0%

疾病分類	割合 (%)
新生児	50.0
消化器系の疾患	25.2
呼吸器系の疾患	7.4
感染症、寄生虫症	5.2
内分泌、栄養、代謝疾患	3.1
筋骨格系、結合組織の疾患	2.0
循環器系の疾患	1.7
腎尿路生殖器系の疾患	1.7
血液、造血管、免疫機構の障害	1.4
皮膚、皮下組織の疾患	1.0
損傷、中毒、その他の外因の影響	0.7
精神及び行動の障害	0.3
耳及び視覚突起の疾患	0.2
神経系の疾患	0.2

病名	割合 (%)
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	20.4
結腸	12.9
非ろ胞性リンパ腫	9.1
脾	6.8
その他	6.6
小腸	0.5
その他の結合組織及び軟部組織	0.5
後腹膜及び腹膜	0.6
ホジキンリンパ腫	0.6
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明	0.7
口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物	0.7
ろ胞性リンパ腫	0.7
副鼻腔	0.8
T/NK細胞リンパ腫のその他	0.8
悪性免疫増強性疾患	0.9
消化器のその他および部位不明確の良性新生物	0.9
胆のう	1.0
リンパ性白血病	1.2
呼吸器及び消化器の線発生性	1.6
肝及び肝内胆管	2.0
骨髓異形成症候群	3.3
骨髓性白血病	3.8
直腸	4.0
気管支及び肺	4.2
多発性骨髓腫及び悪性形質細胞性新生物	4.7
胃	5.2
胆道	5.5

疾患名	割合 (%)
胆石症	16.9%
ヘルニア	12.0%
腸憩室性疾患	10.2%
急性虫垂炎	6.9%
腸のその他の疾患	6.9%
胆道のその他の疾患	5.2%
胃潰瘍	3.2%
腸の血行障害	3.4%
消化器のその他の疾患	2.7%
アルコール性肝疾患	2.5%
肛門及び直腸のその他の疾患	2.4%
胃及び十二指腸のその他の疾患	1.7%
潰瘍性大腸炎	1.5%
その他の腸の機能障害	1.4%
静脈血栓症	1.4%
痔核及び肛門周囲	1.2%
急性肝炎	1.2%
肝線維症及び肝硬変	1.2%
その他の虫垂炎	1.2%
胃炎及び十二指腸炎	1.2%
十二指腸潰瘍	1.0%
中毒性肝疾患	1.0%
その他の肝疾患	1.0%
その他	7.3%

MDC分類別統計です。

14日以内での退院が平成29年、平成30年共に、60%を超えております。

また、MDC06、13に次いでMDC04呼吸器系疾患も200件を超える件数となっております。

年齢別では、60代から80代で70%以上を占めております。

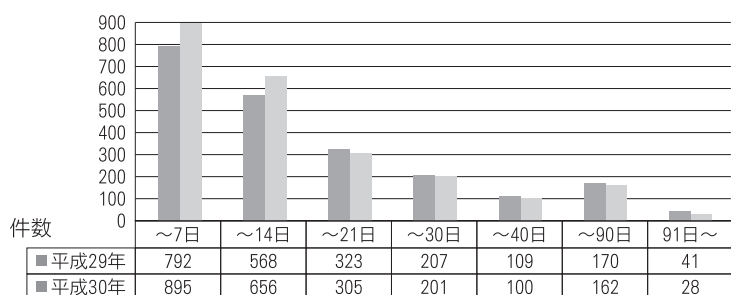
■平成29年MDC別統計

MDC 大分類	MDC分類名称	件数	在院期間							年齢								
			～7日	～14 日	～21 日	～30 日	～40 日	～90 日	91日 ～	～19 歳	20歳 ～	30歳 ～	40歳 ～	50歳 ～	60歳 ～	70歳 ～	80歳 ～	90歳 ～
01	神経系疾患	11	5	3		2		1					1		2	2	5	1
03	耳鼻咽喉科系疾患	35	15	11	2		3	4			3	4	3	1	5	5	6	8
04	呼吸器系疾患	249	52	93	32	21	16	30	5		3	11	4	11	15	64	41	77
05	循環器系疾患	30	7	9	3	4	4	3				1	1		2	4	9	13
06	消化器系疾患・肝臓・胆道・膵臓疾患	1233	606	262	150	94	38	65	18		8	17	33	84	135	335	315	272
07	筋骨格系疾患	53	16	8	10	6	5	7	1		1	5	3	4	3	7	11	15
08	皮膚・皮下組織の疾患	30	2	10	9	3	3	2	1					2	3	3	7	11
09	乳房の疾患	9	2	1	3	1		2							2	3	2	2
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	112	14	55	28	10	4	1					2	5	12	31	41	18
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖系疾患	65	10	22	14	8	2	5	4					3	4	11	27	18
12	女性生殖系疾患及び産婦人科疾患・異常妊娠分娩	13	1	2	1	3	2	3	1					1	1	6	4	1
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	268	24	49	63	49	30	42	11			2	5	9	29	82	87	46
15	小児疾患	67	28	31	4	2	1	1			5	12	12	9	8	8	6	6
16	外傷・熱傷・中毒	11	4	3	1	2		1				2	2	1	1		1	4
17	精神疾患	2	1	1													1	1
18	その他	22	5	8	3	2	1	3			1		1	1	2	5	7	4

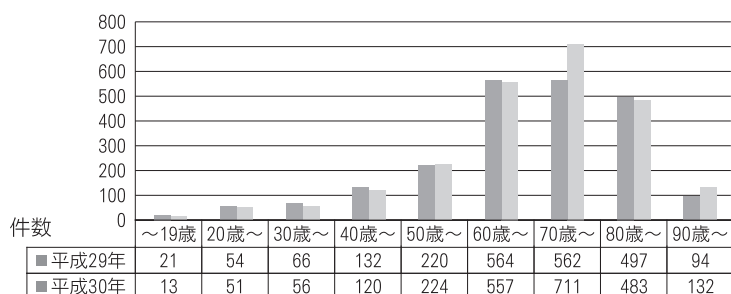
■平成30年MDC別統計

MDC 大分類	MDC分類名称	件数	在院期間							年齢								
			～7日	～14 日	～21 日	～30 日	～40 日	～90 日	91日 ～	～19 歳	20歳 ～	30歳 ～	40歳 ～	50歳 ～	60歳 ～	70歳 ～	80歳 ～	90歳 ～
01	神経系疾患	13	5		3	2		1	2		1		1	1	1		6	3
03	耳鼻咽喉科系疾患	53	21	17	8	6		1		2	9	3	4	6	14	9	6	
04	呼吸器系疾患	225	34	81	44	23	14	25	4		2	2	8	8	38	67	69	31
05	循環器系疾患	26	6	7	4	1	2	5	1						3	3	14	6
06	消化器系疾患・肝臓・胆道・膵臓疾患	1390	673	372	140	88	41	69	7	8	26	41	91	149	345	398	268	64
07	筋骨格系疾患	56	19	10	10	7	4	4	2			1	2	9	12	21	10	1
08	皮膚・皮下組織の疾患	38	7	17	7	4	1	1	1			1	1	4	11	7	11	3
09	乳房の疾患	3	1		1			1						1		1	1	
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	79	11	35	21	6	2	3	1	1			8	11	17	20	19	3
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	58	16	16	11	6	4	5			3			7	6	23	13	6
12	女性生殖器系疾患及び産婦人科疾患・異常妊娠分娩	7	2	2	1		1	1						1	3	2	1	
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	345	73	87	50	55	30	40	10	1	3	6	2	18	103	151	50	11
15	小児疾患	21	10	7	2	1		1			5	2	2	2	2	3	4	1
16	外傷・熱傷・中毒	14	10	1	1			2			1			3	2	2	5	1
17	精神疾患	5	3		1		1						1	1		1	1	1
18	その他	14	4	4	1	2		3		1	1			3		3	5	1

在院期間別件数（H29-30）



年齢別件数（H29-30）

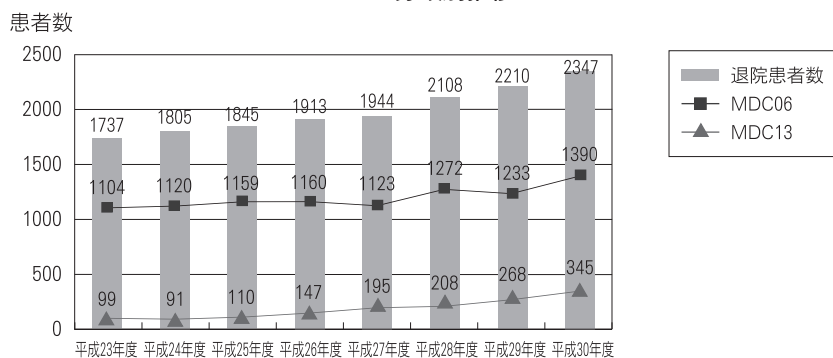


MDC06消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患とMDC13血液・造血器・免疫臓器の疾患の年推移です。

年々患者数が増加しており、平成23年からは610件増となっております。

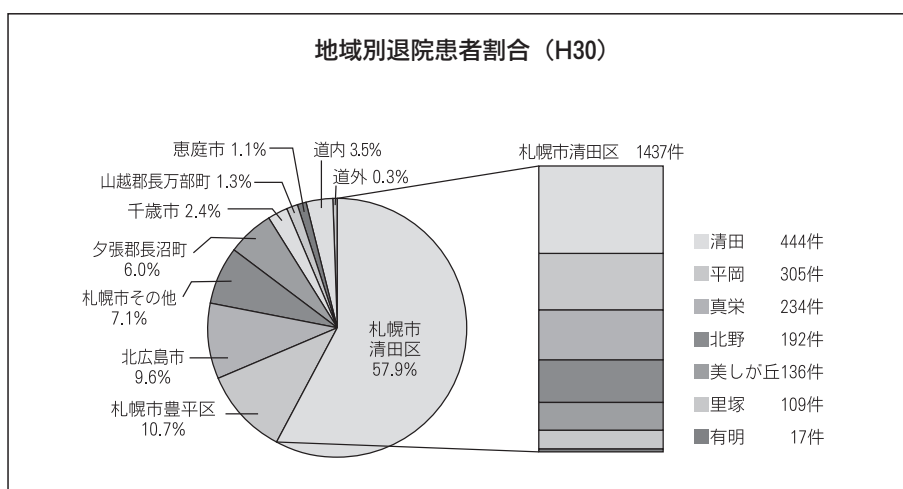
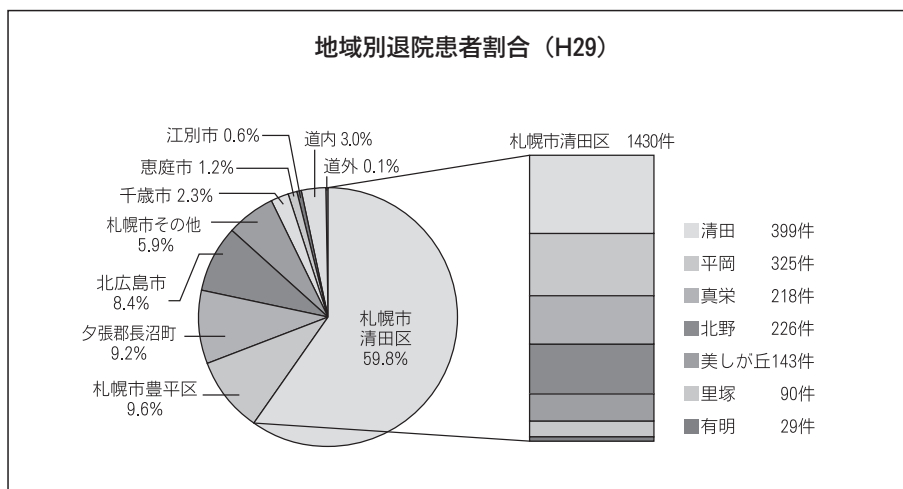
また、MDC13血液・造血器・免疫臓器の疾患では、平成23年から平成30年まで約3.5倍まで増加しています。

MDC分類別推移



こちらは、地域別退院患者割合になります。

清田区が6割をしめており、近隣の豊平区、北広島市、長沼町等からも来院しております。



【当院から半径 8 km以内の医療機関比較】

※平成29年DPC公開データ（平成29年 4月～平成30年 3月）

病 院 名	距 離	DPC算定 病床※1	病床総数	平均 患者数	平均 在院日数	消化器系 (MDC06) シェア※2
社会医療法人 札幌清田病院	0.0km	89	109	164.41	13.64	6.1%
社会医療法人 蘭友会札幌里塚病院	2.5km	91	99	115.75	14.76	3.7%
社会医療法人 康和会札幌しらかば台病院	2.5km	60	262	71.00	11.72	1.3%
医療法人 徳洲会 札幌徳洲会病院	3.4km	301	301	541.75	13.86	7.2%
医療法人 豊和会新札幌豊和会病院	3.5km	140	140	204.58	15.51	5.8%
医療法人 潤和会 札幌ひばりが丘病院	4.4km	20	166	11.10	10.26	0.1%
社会医療法人 恵和会西岡病院	4.5km	36	98	43.83	11.58	0.8%
社会医療法人 恵佑会札幌病院	4.6km	205	229	388.00	12.21	9.4%
社会医療法人 恵佑会第2病院	4.8km	135	135	274.08	13.10	16.3%
医療法人 社団豊志会肛門科なかやま病院	5.3km	47	47	65.66	6.84	4.1%
独立行政法人地域医療機能推進機構 札幌北辰病院	5.5km	213	238	456.08	9.63	6.0%
社会医療法人 北楡会札幌北楡病院	6.4km	243	281	349.16	13.60	8.2%
医療法人 東札幌病院	7.1km	185	243	155.50	20.88	3.6%
KKR札幌医療センター	7.2km	428	450	883.08	9.69	9.4%
独立行政法人地域医療機能推進機構 北海道病院	7.3km	312	322	496.75	12.94	6.9%
医療法人 大地 小笠原記念札幌病院	7.3km	80	80	159.33	10.89	3.2%

※1 DPC準備病院、出来高算定病院も含まれています。A100一般病棟入院基本料（特別入院基本料を除く）、A104 特定機能病院入院基本料 一般病棟の場合、A105専門病院入院基本料、A300救命救急入院料、A301 特定集中治療室管理料、A301-2 ハイケアユニット入院医療管理料、A301-3 脳卒中ケアユニット入院医療管理料、A301-4 小児特定集中治療室管理料、A302 新生児特定集中治療室管理料、A303 総合周産期特定集中治療室管理料、A303-2 新生児治療回復室入院医療管理料、A305 一類感染症患者入院医療管理料、A307 小児入院医療管理料（1から4）の合計

※2 8 km圏内の消化器系のための医療圏シェア